



## 詳述政治・経済 新訂版

立命館大学 教授  
森 裕之

### はじめに

世界の政治・経済はコロナ禍を経て大きく変化しました。ICT（情報通信技術）が急速に発達し、リモートを活用した働き方が広がりました。AI（人工知能）は従来のデータ分析や予測を行うものから、新しいコンテンツを生み出す生成 AI へと発展しています。多くの産業では先端的な ICT が取り入れられ、テレワークの普及などによって労働のあり方が大きく変わってきました。世界全体ではインフレ（物価高）が進み、ウクライナ危機によって一段と深刻化しました。最近の超大国の「力による秩序形成」は、かつての帝国主義時代を彷彿とさせるものになってきています。

日本についてみれば、金融緩和の継続による円安が常態となり、輸入インフレによってエネルギーや食料品の価格が高騰しました。在留外国人とインバウンドの増加によって外国人問題が取り沙汰されるようになり、国の政治課題として浮上するようになってきました。世界情勢の不安定化と気候変動によって食糧危機が現実性を帯び、農業政策にも転換の兆しが現れています。急速な人口減少とコミュニティの衰退によって人々の孤独・孤立が深刻となり、若者の中に広がるヤングケアラー問題も認識されるようになりました。社会保障の役割が引き続き大きくなる中で、安全保障や老朽インフラが重大な問題となり、国の財政運営はますます難しいものになってきています。また国民の政治不信も強まっており、とくに若い世代の政治への不信・無関心が強くなっています。このことが将来に及ぼす影響は計り知れず、日本の民主主義が重大な局面を迎えているのは確かです。

### 教科書の特徴と改訂のポイント

#### ①内容・知識面

今次改訂された『詳述政治・経済 新訂版』で

は、このような世界・日本の状況変化を反映しつつ、それらを原理・原則から正しく捉えていくことの大切さを重視しています。現代社会を見る上で必要となる政治・経済の基本的な理論・歴史・制度がわかりやすく記述され、高校生たちが社会問題を考えるための知識が十分に身につくようになっています。

また、従来からの「詳述」と同様に、学説や理論、その背景などを丁寧に解説するとともに、難関大入試に対応できる用語レベルを提供しています。

#### ②探究学習

従来から重視してきた「探究」(p.166～/244～)では、最新のトピックスを多角的な視野から捉えるための工夫がなされており、一意的な解答が存在しない社会問題を考える面白さが感じ取れる中身になっています。異なる意見にはそれぞれの根拠と論理があると知ることで、高校生たちが民主主義の持つ意味を深く学べるようになっていきます。「探究」は政治・経済の知識の応用でもあり、高校生たちに基本的な学習の大切さも示しています。困難な社会問題の中で生まれている新しい変化を適切に紹介することで、若い世代が将来に希望を見出せる内容ともなっています。

また細かい工夫としては、本文に「探究へのステップ」を設け、単元学習と探究学習の接続性を高めたり、「探究」ページの問いを2段階にしたりすることで、段階的な考察をしやすいとしています。

これらを通じて、高校生たちが政治・経済の総合的な能力を身につけることが可能となっています。

#### ③図表・資料読解

図表においては必要な情報が大変わかりやすくビジュアル化されており、図表の読み取りを促す問いとあわせて、生徒の資料読解力を育成しやすくなっています。

### さいごに

今回の『詳述政治・経済 新訂版』の最も大きな特徴は、正しい知識と思考力を持って現代社会の変化や課題をクリティカルに捉え、そこから将来の社会発展のあり方を考えられるところにあります。この点において、本書は現代日本の代表的な教科書に他なりません。より多くの学校で指導に活用していただければ、執筆者の一人としてうれしく思います。